

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

平成22年度病虫害発生予報第3号(6月)について

このことについて、病虫害発生予報第3号を発表したので送付します。

栽培終了時にはウイルスの媒介虫を撲滅しましょう!

トマトやキュウリ栽培の終了時期が近づいています。
トマト黄化葉巻病、キュウリ黄化えそ病、キュウリ退緑黄化病の発生しているほ場でみられるミナミキイロアザミウマやタバココナジラミは、ウイルス病を媒介します。
栽培が終了したら株を切断して枯死させ、ハウスを密閉して蒸し込み(約50℃で、7~10日間程度)を行い、ハウス外に逃がさないようにしましょう。



トマト黄化葉巻病
と外 コナジラミ



キュウリ黄化えそ病
とミナミキイロアザミウマ



キュウリ退緑黄化病
と外 コナジラミ

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。
天気は数日の周期で変わる見込みですが、ぐずつく時期があるでしょう。
週別の気温は、1週目~2週目は低く、3週目~4週目は平年並みでしょう。

要素別確率(%)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	30	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

(福岡管区気象台 平成22年5月21日発表抜粋)

予報第3号

向こう1か月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概況

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
水稲	縞葉枯病・ヒメトビウンカ (ヒメトビウンカの保毒虫率と発生量)	-	やや多	やや多
かんきつ	そうか病 ミカンハダニ	少 少	少 やや少	並 少
なし	黒星病	並	並	並
ぶどう	黒とう病	並	並	少
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	少 並	やや少 並	並 並
いちじく	アザミウマ類	やや少	やや少	やや少
果樹共通	カメムシ類	並	-	並
茶	炭そ病 もち病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 少 少 並 やや多 少	やや多 並 少 並 多 少	多 多 少 並 並 少
アスパラガス	アザミウマ類	並	並	並

注：果樹共通 カメムシ類の発生量（現況）は前年比

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【普通作物 - 水稲】

普通期水稲

1 縞葉枯病・ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬に行った小麦での片振り20回すくい取調査の結果、ヒメトビウンカの発生量は第一世代成幼虫 56.0頭（平年 20.7頭、前年 46.3頭）で、平年より多かった（+）。

イ 越冬世代ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、9.8%（過去7カ年平均 6.1%、前年8.4%）であった（平成22年度注意報第2号参照）（+）。

(3) 防除上の注意

ア 福岡・朝倉・飯塚農林管内の5月5半旬小麦すくい取り調査では、ヒメトビウンカ第一世代の中～老齢幼虫率が高く、羽化後水稲へ移動する恐れがあるため、適期収穫を徹底する。

イ 前年度、縞葉枯病が多発したほ場では、田植え時期を可能な限り遅らせる（麦収穫後の6月10日以降）。

ウ 水稲苗へのヒメトビウンカの飛び込みを防止するため、エノコログサ、イタリアンライグラス等のイネ科植物が繁茂した場所や麦類作付ほ場の近くでは、育苗を避ける。

エ 箱施薬剤は農薬使用基準（投下薬量）を厳守し、育苗箱全面にむらなく散布する。

散布後は水稲への速やかな吸収を促すため、かん水を行う。

また、育苗箱で農薬を散布する場合は、育苗箱の下にビニールシート等を敷き、地面への薬剤の浸透防止に努める。

オ ヒメトビウンカの第一世代成虫は、5月中旬頃から羽化して水稲へ移動するので、5月下旬～6月上旬移植の早植水稲では、移植直後から成虫の発生状況に注意し、発生が多い場合は防除を実施する。

カ 縞葉枯病の発病株を認めたら、直ちに除去する。

【果樹】

1 かんきつそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

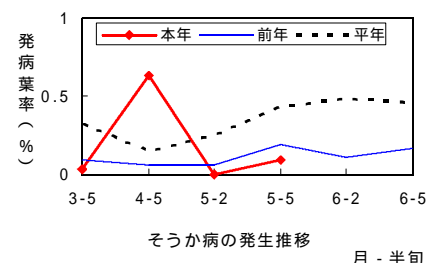
発病葉率 0.1%（平年 0.4%、前年 0.2%）

発生ほ場率 20.0%（平年 31.1%、前年 33.3%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている（±）。

(3) 防除上の注意

伝染源となる罹病葉を除去し、幼果期の防除を徹底する。



2 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

寄生葉率 5.3%(平年 13.4%、前年 26.4%)

発生ほ場率 40.0%(平年 61.2%、前年 58.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(-)。

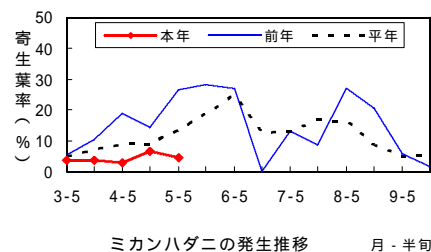
(3) 防除上の注意

ア 高度精製マシン油乳剤は、高密度時には十分な効果が得られないので、発生密度が高くなる前に散布する。

なお、落花期以降にデラン剤を散布した園地は薬害が生じる恐れがあるので使用しない。

イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



3 なし黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

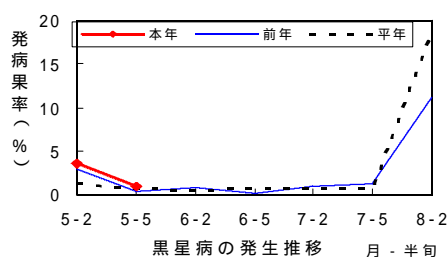
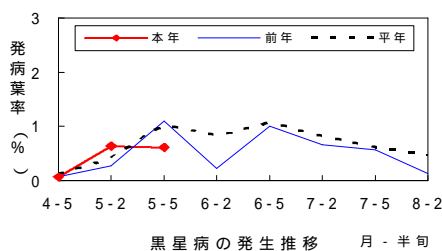
ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0.1%(平年 1.0%、前年 1.1%)

発生ほ場率(発病葉) 45.5%(平年 40.2%、前年 45.5%)

発病果率 0.6%(平年 0.6%、前年 0.3%)

発生ほ場率(発病果) 30.0%(平年 23.7%、前年 10.0%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉や罹病果実は伝染源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 ぶどう黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生は少なかった(-)。

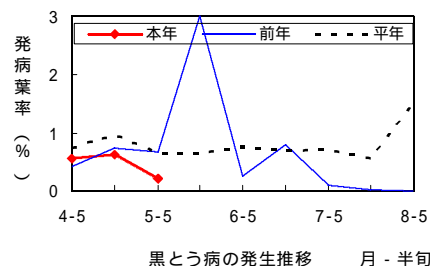
発病葉率 0.2%(平年 0.7%、前年 0.7%)

発生ほ場率 10.0%(平年 19.4%、前年 8.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

伝染源となる罹病葉及び罹病新梢は除去し、園外に持ち出し処分する。



5 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生は認められなかった(-)。

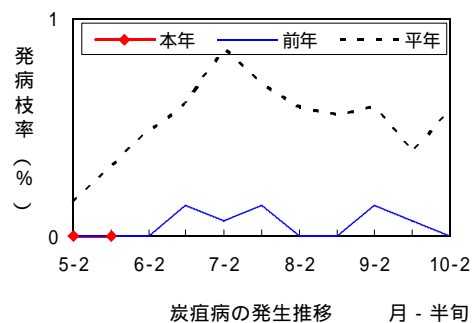
発病枝率 0%(平年 0.3%、前年 0%)

発生ほ場率 0%(平年 19.1%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 伝染源となる罹病枝及び罹病果は除去し、園外に持ち出し処分する。



6 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生枝率 1.5%(平年 2.3%、前年 1.1%)

発生ほ場率 41.7%(平年 54.5%、前年 35.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(±)。

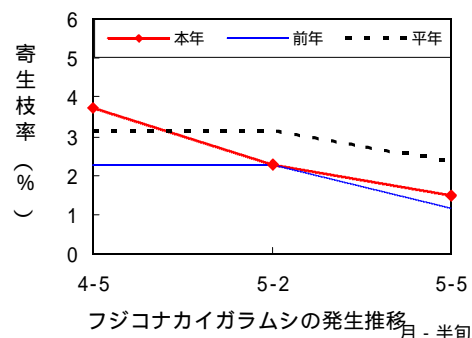
(3) 防除上の注意

ア 第1世代幼虫の孵化時期は防除効果が高いので、6月上旬～中旬に10日間隔で2回防除を実施する。

孵化時期はほ場によって差があるので、防除前に孵化幼虫の有無を確認する。

イ 薬剤がかかりにくい場所に寄生しているので、散布むらのないよう丁寧に防除する。

ウ 薬剤散布にあたっては、極力、天敵類に影響の少ない薬剤を選択する。



7 いちじくのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

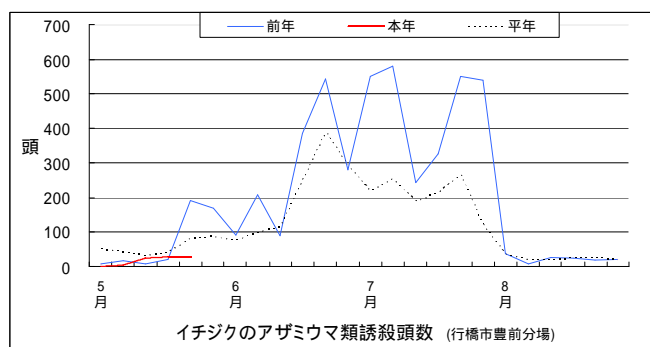
ア 5月1日～21日までの誘引剤における誘殺虫数は、平年よりやや少なかった(-)。293頭(平年 779.3頭、前年 305頭) (調査地点：行橋市西泉)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 園地周辺の6～8月に開花する植物でも増殖するので、畦畔等の除草に努める。

イ ほ場で発生が認められたら定期的に薬剤防除を行う。



8 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年・前々年並

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬量は、県平均で2.0頭(前年 1.3頭、前々年 0.5頭、平成18年 1.8頭)と前年よりやや多く平成18年並であった。

イ 5月5半旬までの予察灯への誘殺虫数は前年・前々年並であった(±)。

(調査地点：本所管内筑紫野市)

チャバネアオカメムシ 387頭(前年 154頭、前々年 344頭、平成18年 248頭)

ツヤアオカメムシ 153頭(前年 233頭、前々年 399頭、平成18年 32頭)

(調査地点：筑後支所管内八女郡黒木町)

チャバネアオカメムシ 96頭(前年 192頭、前々年 74頭、平成18年 753頭)

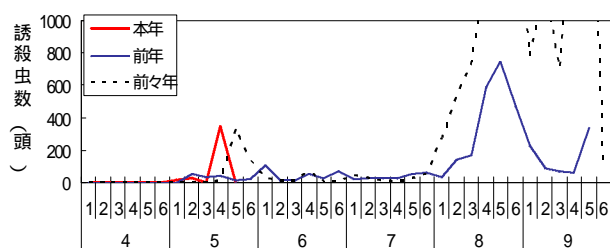
ツヤアオカメムシ 55頭(前年 66頭、前々年 14頭、平成18年 28頭)

ウ 5月5半旬までのフェロモントラップへの誘殺虫数は前年よりやや少なかった(-)。

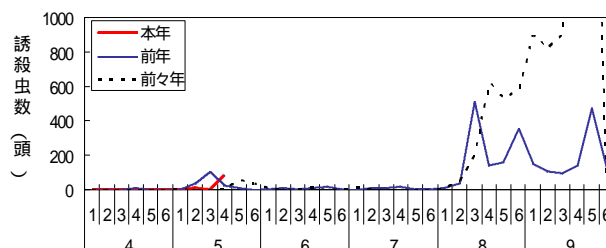
(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 871頭(前年 1346頭、前々年 837頭)

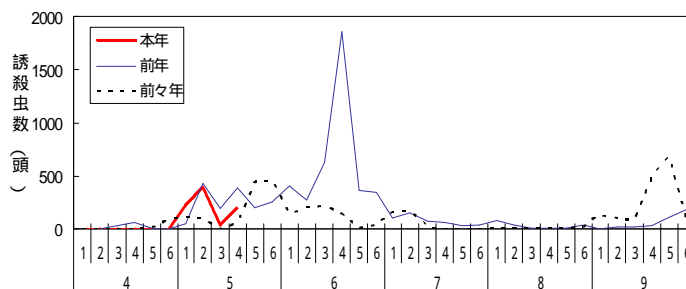
ツヤアオカメムシ 78頭(前年 439頭、前々年 211頭)



予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移(筑紫野市) 月-半旬



予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移(黒木町) 月-半旬



集合フェロモンにおけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移(筑紫野市) 月-半旬

エ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(-)。

(3) 防除上の注意

ア 調査地域間の越冬量に差が大きかったので、気温が高い場合、地域によってはウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ園に飛来することが予想される(平成21年度技術情報第10号参照)。

イ 常発地では、園内における発生状況の把握に努め、飛来を多く認めたら直ちに防除を行う。

【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ 黒点病		並	並	・伝染源となる枯枝や剪定枝は除去し、園外に持ち出し処分する。
アブラムシ類	少	少	少	
なし アブラムシ類	やや少	やや少	並	・薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
ハダニ類	少	やや少	やや少	
ぶどう べと病	並	並	並	・伝染源となる罹病葉は除去し、園外に持ち出し処分する。
かき うどんこ病	やや少	やや少	やや少	・多発園では、8月下旬に炭そ病との同時防除を行う。 ・幼虫は葉と葉が重なった部分やヘタと果実の間に多く潜んでいるため、薬剤散布に際しては高圧で十分量散布する。
ハマキムシ類		やや少	やや少	

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉数 0葉(平年 0.1葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(平年 3.2%、前年 0%)

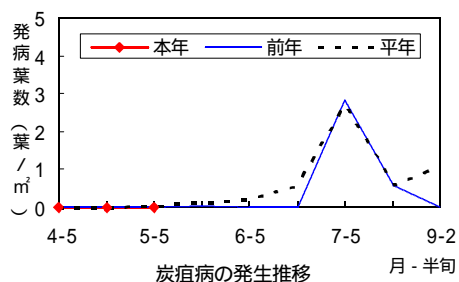
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により胞子が飛散伝搬するので、降雨前に薬剤防除を行う。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 もち病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

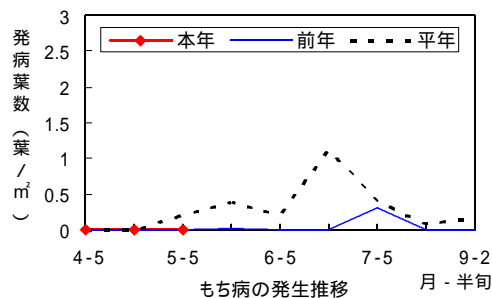
発病葉数 0葉(平年 0.2葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(平年 3.2%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。



3 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

寄生葉率 1.0%(平年 6.4%、前年 4.9%)

50葉当たり虫数1.1頭(平年 19.9頭、前年 8.1頭)

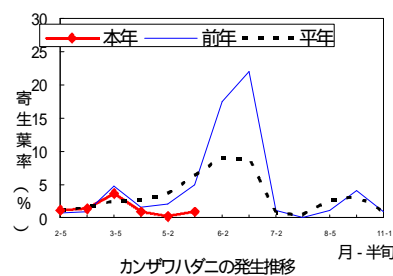
発生ほ場率 12.5%(平年 41.5%、前年 60.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(-)。

(3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上の場合は防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



4 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

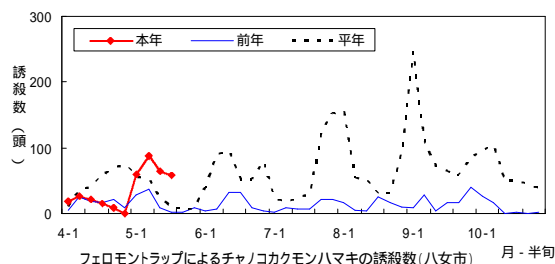
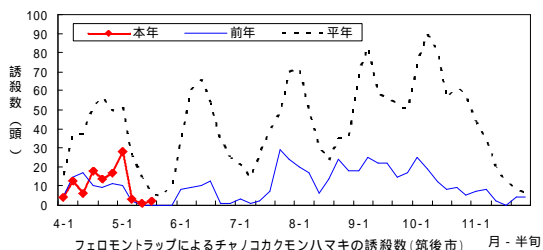
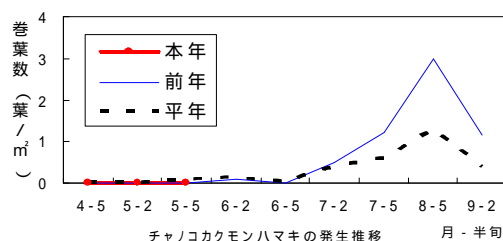
(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

被害葉数 0葉(平年 0.08葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(平年 4.8%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(±)。



(3) 防除上の注意

ア 第1世代成虫の発蛾最盛期は、6月下旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

たたき落とし虫数 0.5頭(平年 0.3頭、前年 0.1頭)

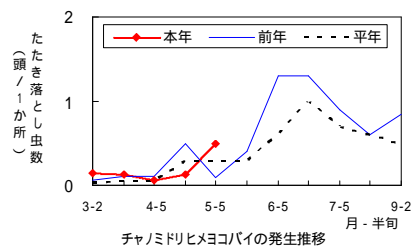
発生ほ場率 68.8%(平年32.8%、前年20.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)

たたき落とし虫数 2.3頭(平年 7.4頭、前年 4.0頭)

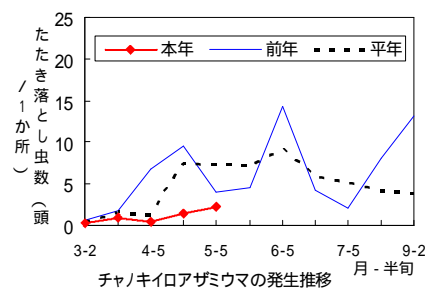
発生ほ場率 81.3%(平年81.8%、前年86.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(-)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で、10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【野菜】

1 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)

寄生株率 61.7%(平年 60.6%、前年 76.1%)

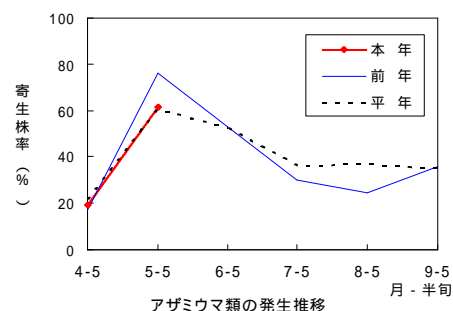
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は低く、降水量は多いとされている(-)

(3) 防除上の注意

ア ほ場内やほ場周辺の除草を徹底する。

イ 本虫は最初擬葉に発生するが、微小昆虫で見つけにくいので、白い紙等の上に払い落としで発生量を推定する。

ウ 多発してからでは防除が困難になるので、初期防除を徹底する。



【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	並	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・本病は、ハウス内が過湿になると発生しやすいので、換気を十分に行う。 ・過繁茂にならないように整枝を行い、ほ場内の通風をよくする。
チョウ目害虫	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ・黄色蛍光灯を設置しているほ場では、点灯を開始する（6月～10月）。 ・4mm目合いの防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。

農薬の危害防止に努めましょう
～6月から8月は「農薬安全使用運動」期間です～

福岡県では農薬の使用機会が多い6月～8月を、「農薬安全使用運動」の実施期間として定め、農薬の安全・適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故を防止することを目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を、関係機関・団体が一体となって取り組みます。

散布者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いいたします。

~~~~~ 農薬安全使用運動重点啓発事項 ~~~~~

散布前に必ず農薬ラベルを確認

(適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数)

散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底

- ・風、散布方向、散布時間、散布圧に留意
- ・飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用
- ・散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意

水田除草剤や本田粒剤では、使用后7日間の止水を遵守

- ・水田において農薬を使用するときは、散布後3～4日間たん水状態を保ち、散布後7日間は落水・かけ流しをしない

散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄

防除履歴の正確な記帳

- ・薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布年月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ  
電子メール

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704204.html>  
[kfok0301@sp.jpfn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpfn.ne.jp)